



A 岐部 琢美 KIBE, Takumi
1946年生まれ。武蔵野美術大学造形学部彫刻専攻卒業。陶大彫刻研究室副手の頃より、鉄を素材とした立体作品を作り始める。近年は、存在と認識のうつろいのようなものを取り込みシンプルで彫塑感のある作品を提示することを心がけている。個展、グループ展を中心に国内外で作品を発表する。海外展は、フランス、タイ、フィリピン、韓国など。また、県内のアートプロデュースにも多数携わる。藤枝市岡部町在住。

A 小川 佳夫 OGAWA, Yoshio
1962年藤枝市生まれ。90年東京藝術大学大学院修士課程油画専攻修了。アーティストヴィズを取得し1995年〜2007年VJ。現在東京在住。私が描きたいのは「記憶の感の風景だ。具体的な景色ではない。甘味、酸も、塩り気、匂い、官能…五感あるいは六感のどこかに着み、ふとした拍子に記憶の水底から立ち上がってきたものが見えたと感じる。そういう景色だ。聖も道も包含する人間の心」。その意識を都市の上に表現したい。

A 長橋 秀樹 NAGAHASHI, Hideki
1963年静岡市生まれ。高校3年次、沼津美術研究所(沼津市)で美術の世界に飛び込み、2年の最人を経て東京藝術大学油画専攻に入学。陶大美術士美術研究科へ進学し、後継者として継承する。観念的な彫塑の基、絵画に凝る身体性(身振)と支那産であるチベット(唐)の密接な関係について関心し、近年の半島半島が活発な活動家として活躍中。

D アートガレトナリネン(乾久子+福島世津子) Artgaletonarinen (INUI, Hisako + FUKUSHIMA, Setsuko)
2005年ユニット結成。対話をテーマにした作品を東京、ドイツ、韓国で発表してきた。アートガレトナリネンとは、ドイツ語で女芸術家同盟といった意味の造語で、意図的に植物の生育を見守り助けアートという種を蒔きたいという思いがこめられている。「10万の始まりは、311以後の日帯を写真と往復書簡で秘密に綴ったもので、今回作品はその往復書簡の続きと新作オブジェのインスタレーション。乾は糸松、福島はドイツ在住。

D 中村 妙 NAKAMURA, Tse
1984年生まれ。青森県出身。静岡大学大学院修了。在学時より、植物や水、光、影など、記憶に残った自然の色や形をもとにドローイングや立体の制作を続けている。前回のアートドキュメント2011にも参加。高校非常勤講師と美術館ワークショップ指導員を兼務しながら静岡を中心に作家活動中。須川市在住。

B 岸 美智代 KISHI, Michiko
1984年静岡市清水区生まれ。常葉大学卒業。愛知国立芸術大学大学院修了。インスタレーションを主に板ガラスと他素材を構成した作品を発表してきた。最近では、円筒をイメージした作品を制作している。愛知県在住。

11 | 29 SAT → 12 | 7 SUN

静岡アートドキュメント

第4回

2014

A 飯室 哲也 HIMURO, Tetsuya
1947年生まれ。武蔵野美術大学美術学部油絵専攻「観念、感覚、事物、空間の関を注する表現を、多面的に表現しています。1970年代の後半に陶芸が始まり、80年代に多々展開した「球状の空間感覚」は、その後も変容を加えて、現在まで継続している。私の主要なシリーズ作品です。主に球や楕、ステンパイア等、様々なものを線状に組み合わせて、室内外に設置します。神奈川県横浜町在住。

A 寺田 佳央 TERADA, Kyo
1975年生まれ。武蔵野美術大学油絵専攻修了。造形館より1997年独立美術学校に留学。卒業後、武蔵野美術大学1997年に再度1991年、その後ペリリンに1年滞在制作。主にペインティングの制作に取り組み。素材と支持体の特性から新たな質感や物質の表現を導き出し、主に水にまつわるイメージを使って、不安定ながらも流動的なある力学による画面を基盤として制作している。素材を生かしたドローイングの特質な表現を模索化する作業も行う。

A 山内 啓司 YAMAUCHI, Kei
1955年生まれ。日本大学芸術学部美術学科絵画専攻。1994年より、浜松の町工場を拠点に機械オブジェなど発表。2004年より、GALLERY CAVE主宰。自然現象から生まれた映像表現を用い、インスタレーション空間の中で、ダンスパフォーマンス、音楽など、異なるジャンルとの融合を企画する。須川市在住。

C E 白井 嘉尚 SHIRAI, Yoshihiro
1953年生まれ。東京藝術大学卒業。修了。絵を描くために絵を描く。1979年から89年にかけて、「銀のフロタージュ」「フリージグソーパズル」シリーズ。1990年から現在まで、絵具の染み・滲みのなかで遊ぶ。「箱」によるドローイングと「森のなかの花」シリーズ。企画者としてはA-Walk展参加に賛同。「和の紙・線」展プロデュース。「めぐるりアート静岡」企画に賛同。静岡大学で絵画分野を担当。

E 奈木 和彦 NAGI, Kazuhiko
1970年静岡市生まれ。東京芸術大学美術課程美術専攻卒業。在学時の1995年より制作「発表を開始。絵画を仕事の軸に置いたながらも「場」における対峙のあり方として時に、平面とは異なる媒体でのアプローチを試みている。近年は主にステン生地を支持体とした油絵画とマテリアルにオブジェクトを使用したインスタレーションを手掛ける。静岡、東京、BREVENなどで個展を開催。現在、藤枝市在住。

E 松浦 延年 MATSUURA, Nobumichi
1949年静岡市生まれ。1980年代コ(オート)ライマンの絵画に衝撃を受ける。精神的色彩である緑の連作に入る。神田真木画廊での200号の作品「8月3日」で終わる絵画」発表後、新たな抽象表現の可能性を追求。カネコアート「TOKYO」での「マツウラRed」の展覧会に際し、渡村の絵画を展覧する絵画シリーズが始まる。展覧会も海外展の機会を開拓しながら現在に至る。作品も155展で中心。国内外での発表が続く。

C 峰谷 充志 HACHIYA, Mitsushi
長野県に生まれる。1980年代、新表現主義の波をかぶるところから表現活動が始まる。物質にこだわる美術のよろさを痛感し、1996年以降はフィールドインスタレーションを中心に展開して行く。「目の前にはないものは記憶がなくなる」という概念のもと、制作に実装されない表現の場を確保し、社会空間に提示する一連のプロセスを作品として表現活動をしている。

B 中村 昌司 NAKAMURA, Masashi
1953年生まれ。東京藝術大学美術学部油絵専攻卒業。静岡美術大学一統に出会う。高校美術教師しながら、静岡市清水区で漆を染め、樹皮、東京、京都、山梨、静岡にて個展やグループ展に作品を発表してきた。東日本大震災と福島第1原発事故から赤色を使用。現在、展覧について考えている。須川市在住。

B 楽士舎・楽士の森プロジェクト RAKUDO'SHA, Rakudo no Mori Project
森井市豊沢に1999年楽士舎創設。「新たな創造空間の構築」をコンセプトに、人と自然とアートの関わり方、また現代社会の悩みの中で、根源的なものごとの根拠を考察。楽士の森プロジェクトでは、建築、美術、音楽、身体表現などが有機的に結びつくことで創造の空間を創出。これまでのプロジェクトで建設された楽士舎や舞台装置は、オブジェとして舞臺と同時に解体・再生を繰り返している。(代表者マツダイイチロウ)

B 中村 昌司 NAKAMURA, Masashi
1953年生まれ。東京藝術大学美術学部油絵専攻卒業。静岡美術大学一統に出会う。高校美術教師しながら、静岡市清水区で漆を染め、樹皮、東京、京都、山梨、静岡にて個展やグループ展に作品を発表してきた。東日本大震災と福島第1原発事故から赤色を使用。現在、展覧について考えている。須川市在住。



静岡アートドキュメント 2014 作品配置図

※図中の番号は、作品をみてまわる順番とは関係ありません。自由にご鑑賞ください。



舞台芸術公園

静岡大学ビオトープ

駐車台数 15台



1: 白井嘉尚 2: 蜂谷充志

- 1: 松浦澄江 2: 岐部琢美 3: 田中俊之 4: 北川 純
- 5: 佐野 翔 6: 渡辺五大 7: 飯室哲也 8: 小川佳夫
- 9: 村上慎二 10: 寺田佳央 11: 山内啓司 12: 長橋秀樹
- 13: 常葉大学造形学部学生 + ジャック・ワックス



大谷の古民家「大村邸」

駐車台数
表側 1台
カフェ側 3台

- 1: アートゲルトナリンネン (乾久子+福島世津子)
- 2: 中村 妙



萬象寺

- 1: 松浦延年 2: 奈木和彦
- 3: 白井嘉尚

静岡アートドキュメント 2014 作品配置図

※図中の番号は、作品をみてまわる順番とは関係ありません。自由にご鑑賞ください。

- 1：井上明彦 (2カ所)
- 2：山本晴康 (2カ所)
- 3：樂土舎・樂土の森プロジェクト
- 4：夏池 篤 (遍在する立木・10カ所)
- 5：丹羽勝次
- 6：木下琢朗
- 7：ゴンザレス・ウィルフリド (5カ所)
- 8：中村昌司
- 9：塚本南波
- 10：岸美智代
- 11：河村洋子
- 12：子どもたちとの共同制作 (ゴンザレス・ウィルフリド)

